在宅福祉ニーズにおける在宅支援に関する研究(Ⅰ)

—岡山県を事例として—

A STUDY CONCERNING THE RESIDENT SUPPORTING SYSTEMS OF THE WELFARE NEEDS AT HOME

(Ⅰ)

A case study of the Okayama prefecture

朴 貞淑 —*1 中西勝彦 —*2
足立 啓 —*3

Jungsook PARK —*1 Katsuhiko NAKANISHI —*2
Kei ADACHI —*3

キーワード：
岡山県, 高齢者, 身体障害者, 福祉ニーズ, 在宅支援

Keywords:
Okayama prefecture, Aged person, Disabled person, Welfare needs, Residence supports

This Paper describes about the residence to have been constructed as new concept, for QOL (Quality Of Life) of aged person and disabled person at Okayama Pref. and a public welfare support. Aged person population of Okayama Pref. area less than more than 14 percents 20 percents, 28 place less than more than 20 percents 30 percents, was very high with 38 place. For QOL of aged person and disabled person, an environment at residence and a public welfare support were necessary. Emergency system was very a few with 22 place, and homehelp greatly was enforced with 77 place. From now on, residence, about a comfort, a welfare support at home is tread regionality of Okayama Pref. is necessary to research.

1. 研究の背景と目的

現在、日本は世界一の長寿国として、5人に1人が65歳以上の高齢者である。これに伴い他の国でも例を見ない急速なスピードで高齢化が進んでいる。高齢者の人口は、2015年には人口比率の26%になり、約4人の1人が65歳以上の高齢者になると予測されている。

岡山県の高齢化率(図1)をみると2004年には22.3であり、岡山県の山間部に位置している地域は、高齢化率が30%以上(38カ所)である。今後、ますます「高齢化」「過疎化」「少子化」が進行していくことが予測されている。高齢者の増加に伴い、高齢や身体障害のある人が、加齢や疾病により身体が虚弱となった場合、それぞれの立場や状況に応じて、住み慣れたまちで、安全かつ快適に暮らす

ために在宅福祉ニーズに応じた在宅支援が求められている。また同時に、高齢者、身体障害のある人が自らのハンディにより発生する生活上の障害や危険を克服でき、自立行動ができるよう心理的・物理的にもライフサポート(Life Support)ができる環境が重要である。高齢者の生活の質(QOL)を確保した存在環境は

重要になる。在宅福祉ニーズの多様なライフスタイル(Life Style)が反映され、高齢者が安心して自立した生活を送れるように支援が求められる。高齢者の自立支援に当たっては、様々な生き方を主体的に選択できるように配慮することが必要である。

本研究では、多様化する高齢者の在宅福祉ニーズにおける在宅支援について着目し、快適な日常生活を続けるための高齢者・身体障害のある人の在宅福祉環境や公的福祉支援について、調査を行い現状実態の把握と動向、および課題点の抽出と今後の課題について検討することを目的とする。

2. 研究の対象及び方法

研究対象は、岡山県における高齢者・身体障害のある人の住宅について、実験(提案)住宅2棟、新築住宅2棟である。高齢者の公的福祉支援については、岡山県の市町村及び市町村社会福祉協議会(10市、56町、12村)である。研究方法は、2000年5月と2004年5月に現場調査とインタビューを行った。高齢者の公的福祉支援について①緊急システム②ホームヘルプ③ショートステイ④デイサービス⑤日常生活用具⑥給食サービス⑦介護手当て⑧おしめ給付⑨移送サービス⑩交通機関利用⑪福祉バス⑫住宅改修⑬その他、13項目である。

3. 実験住宅

3.1 実験住宅(A)

病気やけがによる身体障害の心配など、万一の事態に備えた住まいづくりの提案として、安全、健康に住むことのできる高齢者・身体障害のある人のための対応住宅である。ソーラーエネルギーによるオー

図1 岡山県における高齢者率

*1 和歌山大学大学院システム工学研究科 博士後期課程
(〒719-1197 岡山県総社市窪木111番地)
*2 岡山県立大学デザイン学部 助教授
*3 和歌山大学システム工学部 教授

*1 Graduate Student, Graduate School of Systems Engineering, Wakayama, Univ.
*2 Assoc., Prof., Dept. of Craft and Industrial Design, Faculty of Design, Okayama Pref. Univ.
*3 Prof., Dept. of Environmental Systems, Faculty of Systems Engineering, Wakayama, Univ.

図2 実験住宅(A)の平面図

図3 実験住宅(A)

ル電化住宅で、自然素材を使用し消臭・抗菌の対策をしている(図2)。勾配は、1/15で、材質は滑りにくいものとし、スロープのサイドは車椅子の転倒防止のため、少し高く、割れないような仕上げである。玄関は、自動ドアであるが、利用者を考えて、三つのスイッチが設置されている。Aのスイッチを押すと自動的に開き、一定の時間が経つと自動的に閉じる。Bのスイッチは、自分の意志で開けたい位置まで押し続けると開き、手を離すと止まる。Cのスイッチは、両手が使えない場合足で開ける。玄関には、手洗い器とベンチ(高さ400mm)を設置し、腰を掛けたまま靴のはきかえができる。車椅子の収納スペースを設け段差には、足元灯と感熱センサー付きの照明を採用している。

1) 和室：和室の床面を400mmとし、車椅子から移動に配慮してある。和室作りつけ机は、堀ゴタツ形式で腰を掛けて使用できる。畳は、天然パルプを使用し、抗菌・消臭処理をしてある。踏み台は、車椅子使用者以外の人が出入りの際に階段として使用できる。和室には、植物が置かれている。中本有美(2001年)によると室内の植物について①温熱環境・快適性向上効果②心理・生理的效果③視覚疲労緩和・回復効果④調湿作用・空気浄化効果があり、寝たきりになり、外出が出来なくなった場合でも緑を楽しむ事が出来る。また、植物の周りには、消臭・調湿のために炭を敷き詰めてある。

2) リビング：在宅医療を考慮しミニキッチンを用意してある。クローゼットは、バスに接する壁の部分に設け、将来的には浴室への移動

でリフトを使用したり、介護スペースとして広げることが可能である。ドアは、緊急時に患者を運び出しやすいように開口部を大きく取り、接しているポーチの高さは、救急車に合わせてある。テラスに段差がなく、玄関を通らずに直接リビングに行けるようスロープを設置している。非常時には、避難通路になる。

3) キッチン、バス、トイレ：キッチンは、昇降用のシステム電化キッチンで、緊急通報システムを設置してある。バスは、段差をなくした車椅子対応である。ベンチ、手摺りなどを利用してある程度まで一人で入浴が可能である。浴槽は入浴時の介護のため、浴槽周りを落とし込んでいる。緊急通報装置をしてある。バスとリビングの間仕切り壁を取れば、天井走行リフトの設置が可能である。トイレは、介護が必要な時、南側にもドアを設けた。入口は段差がなく、転んでも衝撃が少ない床材を使用している。トイレは、腰掛け式で、手すりの設置、文字が大きいボタンを設置してある。非常用ブザーは、転倒した時でも手が届く様に、ひもスイッチを使用している。

3.2 実験住宅 (B)

ケアハウスとして暮らす人、介護する人のライフスタイルを考慮した住宅である。高齢者・身体障害のある人のための提案住宅である。

1) アプローチ・リビング・和室：玄関に階段昇降機を取り付け、階段はノンスリップ加工を施し手すりを設けてある。車椅子の回転を考慮し、ポーチ幅は1,750mm設け、室内にエレベーターを設けた。玄関のドアにはワンタッチ電動引き戸を採用し、玄関横の階段下に車椅子の収納庫を設け、屋内用車椅子に乗り換えるための移乗台を設けてある。南側窓とテラスの段差をなくし、電動シャッター、電動カーテン、床暖房を採用している。和室は、堀座卓を設け、高さを車椅子の座面高と同じにしている。

2) キッチン：万一のとき、日常のケアにも負担のかからないように集中コントロールシステムと自動緊急システムを設置してある。昇降式システムキッチンを採用し、健常者も使いやすくしている。

3) サニタリー・バス・トイレ：天井走行リフトで移動できるよう寝室、バス・トイレの位置に設置してある。洗濯機は横型ドラム式で、洗面台は昇降式で、洗面台の下に車椅子が入るようにしてある。バスには、洗い台を設け、車椅子から浴槽への移動ができることと、寝たきりになった時のことを想定し、バスの戸を取り外せばトイレ部分と一体で広く使えるようにしてある。3枚引き戸を設置し、緊急通報システムの設置、電動昇降式の洗濯物干しが設置してある

4. 新築住宅

4.1 新築住宅 (A)

事故による頸椎損傷で下半身麻痺となり、自立できる生活空間と、家族とのふれあいの持てる生活空間を融合した住宅である。家族構成は、本人、母親、兄夫婦と子供2人 計6人である。構造は、木造2階建て、使用部分は1階床面積108.34㎡ある(図4)。

1) 玄関：電動昇降機を設置し、1人で外出が可能である。

2) 寝室：将来のことを考えて天井走行リフトを設置している。

3) トイレ：便座の高さを車椅子より移動可能な高さまで上げ、同じ高さで柔らかいゴムを敷いた木材台(高さ460mm)を設置してある。

4) バス：3枚の引き戸で、浴槽の高さを車椅子から移動可能な高さまで上げた。柔らかいゴムを敷くことにより転倒時の衝撃を解消し、

図4 実験住宅(B)の平面図

図5 実験住宅(B)

浴槽内に水圧による昇降機を設置し、1人で入浴が可能である。

5) サニタリー：洗面台は車椅子がカウンターの下に入るものを採用してある。水栓金具はすべてレバー式を採用してある。洗濯機は車椅子からでも洗濯物が取り出せるように床から少し下げている。A住宅の居住者からは「家の中を車椅子で、自分の目的地に行くことが可能なので満足している」との答えがあった。

図6 新築住宅(A)の平面図

4.2 新築住宅 (B)

事故による頸椎損傷で下半身麻痺となって、手の握力はない。車椅子生活をする。家族と離れて介助なしで1人で生活するための住宅である。家族構成は、本人のみ、構造は、木造2階建てで使用部分は、1階部分(床面積79.26㎡)のみである(図6)。

1) 玄関: 1/12勾配のスロープを設けてある。段差をなくし、来客者が靴を脱ぐ位置を示すために床見切りをつけてある。

2) 寝室: 車椅子からベッドへの移動や起き上がりのために、ベルトが取り付けられている。クローゼットには、車椅子で入って行ける。

3) キッチン: 車椅子で届く140mmまでの収納である。流し台の下に車椅子が入るようにシンクは深さ150mm程度の浅いもので、流し台の高さは800mmとなっている。ガスレンジは低めにして火にかかっている鍋の中が覗き込めるようにしてある。

4) トイレ: 温水洗浄便座を採用してある。便座の高さは、硬質ゴムを挟み込んで車椅子と同じ高さまで高くしてある。

5) サニタリー・バス: 車椅子がカウンターの下に入るように、高さは755mmとなっており、尿瓶洗浄用に、吐水口の位置の高いシングルレバーの水栓を採用している。洗濯機も高さの低いものを使用し、高さ835mmとなるよう床に埋め込んでいる。脱衣移乗台からバスへは、折れ戸で仕切っており、洗い場へ入ることができる。段差はない。バスの床は身体の移動を考慮して、タイルで滑りやすいもの、目地はなくしてある。浴室の出入り部にスノコを配置してある。浴槽へは体を滑り込ませるようにして入り、壁に取りつけたベルトにつかまり浮力を利用して浴槽から出る。車椅子で浴槽の側まで行けるよう段差をなくし、ドアと浴槽の間には排水溝を設置してある。B住宅の居住者からは「寝室は、災害時に1方向非難であるので、2方向非難が出来るように改修したい」との指摘があった。

図7 新築住宅(B)の平面図

5. 高齢者の公的福祉支援概要

岡山県における高齢者・身体障害のある人の公的福祉支援の現状を把握するために市町村及び市町村社会福祉協議会(10市、56町、12村)を中心に次の13項目を調べた。①緊急システム②ホームヘルプ③ショートステイ④デイサービス⑤日常生活用具⑥給食サービス⑦介護手当て⑧おしめ給付⑨移送サービス⑩交通機関利用⑪福祉バス⑫住宅改修⑬その他である。

各項目①緊急システムは、ひとり暮らしの高齢者が家庭での急な事故、万一の場合にボタンを押すだけで、助けを求めることができる支援である。②ホームヘルプは、日常生活に支障のある人の家庭を訪問し、家事及び介護サービスを行う支援である。③ショートステイは、介護者が事情により、介護ができない場合、一時的に要介護の人を施

表 1. 岡山県における高齢者の公的福祉支援

●有り

岡山県	65歳以上人口	65歳以上人口%	①緊急システム	②ホームヘルプ	③ショートステイ	④デイサービス	⑤日常生活用具	⑥給食サービス	⑦介護手当て	⑧おしめ給付	⑨移送サービス	⑩交通機関利用	⑪福祉バス	⑫住宅改修	⑬その他
岡山市	103,461	17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
倉敷市	70,116	16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
津山市	17,481	19	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
玉野市	15,252	22	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
笠岡市	15,284	26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
井原市	8,227	24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
総社市	10,551	19	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
高梁市	6,727	27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
新見市	7,195	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
備前市	6,544	23	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
備前市	2,892	28	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
瀬部町	2,199	32	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
加茂川町	2,082	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
瀬戸町	3,248	22	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
山陽町	3,982	16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
赤坂町	1,354	26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
山崎町	1,881	22	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
吉井町	1,806	33	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
日生町	2,065	24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
白井町	1,276	24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
佐伯町	1,315	32	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
和気町	3,077	24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
牛久保町	2,255	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
邑久町	5,042	26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
長瀬町	2,124	17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
瀬崎町	2,870	18	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
早島町	2,135	18	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
船橋町	1,535	20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
金光町	2,900	24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鴨方町	4,052	22	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鴨方町	1,825	27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鴨方町	2,255	21	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
矢野町	4,696	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美星町	1,958	35	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
芳井町	2,035	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
真備町	3,949	17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
有田町	995	37	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
北原町	2,058	33	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
勝山町	2,844	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成羽町	1,965	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
川上町	1,563	39	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
備前町	1,380	44	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大佐町	1,231	31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
神郷町	888	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
多賀町	1,185	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
西郷町	1,135	35	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
勝山町	2,747	30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
合原町	4,824	30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
湯島町	1,237	36	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
久世町	2,777	24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
加東町	1,755	32	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
加東町	696	38	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
鏡野町	3,321	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
勝田町	1,341	35	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
勝田町	2,823	25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
奈義町	1,722	26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
勝北町	2,090	28	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
大原町	1,572	33	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美作町	3,572	27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美作町	2,675	31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美作町	1,353	31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美作町	2,084	29	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
旭町	1,261	36	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
久米町	2,023	33	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
久米町	2,263	30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
瀬原町	2,186	32	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
山手村	747	19	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
清音村	1,051	19	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美新村	607	35	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
美新村	391	37	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
川上村	717	30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
八束村	901	30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中東村	283	35	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
富田村	347	41	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
上郷村	298	31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
阿波村	233	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
東郷村	473	34	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
西郷村	600	33	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
岡山県	393,658	20	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
市全体	260,838	18	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
町村全体	132,820	26	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※	※

※ 65歳以上の人口 : 総務省統計局、2001年10月
 ※ 公的福祉支援実績調査 : 2004年5月

設にて世話をする支援である。④デイサービスは、高齢者、身体障害のある人を送迎し健康チェック、入浴・給食サービスなどの支援である。⑤日常生活用具は、日常生活が容易になるよう、ベッド、車椅子を給付・レンタルする支援である。⑥給食サービスは、在宅の一人暮らし高齢者に対し、配食を実施することにより、食生活の充実を図ると共に健康状態の把握、安否の確認などを行う支援である。⑦介護手当ては、在宅で介護が必要な高齢者及びその家族に対し、慰労金を支給する支援である。⑧おしめ給付などは、在宅でおしめを利用している高齢者に対しおしめ給付、購入費、レンタル料の支援である。⑨移送サービスは、高齢者、身体障害のある人の移送の支援である。⑩交通機関利用は、高齢者、身体障害のある人に対し、交通料金の助成する支援である。⑪福祉バスは、福祉バスの運行により、高齢者らの外出の便宜を図る支援である。⑫住宅改修は、65歳以上の要介護高齢者の要望に応じて、適切な支援が行われるよう

に福祉関係者(介護福祉士またはソーシャルワーカー)、保健婦・医療関係者(理学療法士もしくは作業療法士または保健婦)、建築関係(建築士または施工者)の専門家が構成して支援を行っている。

5.1 高齢者の公的福祉支援現状

岡山県における公的福祉支援2003年度の実績(表1)である。緊急システムは、22自治体のみで実施されており非常に少なかった。ホームヘルプは78自治体、ショートステイは76自治体で多く実施されていた。デイサービスは72自治体で、日常生活用具は73自治体で実施されていた。給食サービスは66自治体で、介護手当ては63自治体で実施されていた。おしめ給付は31自治体で、移送サービスは23自治体で実施されていた。交通機関利用は37自治体で、福祉バスも30自治体で少なく実施されていた。住宅改修は77自治体で、その他の支援は51自治体で実施されていた。介護保険で行われているホームヘルプ、ショートステイ、デイサービス、日常生活用具などの福祉支援の利用については、市町村で違いがあることが分かった。

6. 結論

岡山県における高齢者・身体障害のある人のQOL (Quality Of Life) を維持するために、新しい試みとして建築された住宅と公的福祉支援について、次のことが明らかになった。

①岡山県の高齢化率は、14%以上20%未満の地域は12カ所、20%以上30%未満は28カ所、30%以上は38カ所で非常に高かった。②高齢者・身体障害のある人の自立と生活の質を確保するためには、在宅環境と公的福祉支援が必要であった。③高齢者・身体障害のある人の住宅は、様々な生活の場面に比較的に対応しやすく提案された。④室内植物は、心理的効果と室内環境を良好にすることで期待できる。⑤緊急システムは、22自治体だけで非常に少なく、ホームヘルプは、77自治体で多く実施されていた。⑥公的福祉支援は、高齢者の人口比率とあまり関係なく、市町村によって実施されていた。

今後は、継続的に調査、分析を進め岡山県の地域性を踏まえた居住性、快適性、公的福祉支援のあり方について検討する必要がある。

謝辞

この研究を進めるに当たり、岡山県社会福祉協議会をはじめご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

注

注1) 65歳以上の人口の資料 : 総務省統計局、2004年9月15日推計

注2) 「高齢化率」とは、高齢者を65歳以上の人々とし、65歳以上の人口の総占める割合を示す。20%以上30%未満・30%以上を超高齢社会に分類している。岡山県は、14%以上20%未満の地域は12カ所、20%以上30%未満は28カ所で、30%以上は38カ所である(総務省統計局2001年10月推計)

参考文献

- 1) 日本建築学会 : 学術講演梗概要集、建築計画E-2 東海、pp. 121~186、2003年
- 2) 朴貞淑・中西勝彦 : 高齢者における住居環境に関する研究—岡山県中庄、西市、芳田団地を事例として—、岡山県立大学紀要、第10号、2003年
- 3) 朴貞淑 : シルバハウジングにおける高齢者の特性と住居環境、日本デザイン学会研究論文集、日本デザイン学会、第50号、2004年

[2005年10月19日原稿受理 2006年2月20日採用決定]